メンバーズインタビュー 組合員紹介 No.4

ミズキ林産株式会社

林業に始まり、原木の運搬・加工・再資源化と、一貫対応できる体制を整え、脱炭素に向けた木材活用を推進する。

用途別に分類されたチップ置き場

どんな事業をされていますか？

「チップ製造事業」、「運送事業」、「原木購買事業」に分けられる。「チップ製造業」については、FIT制度の活用に向けた「木質バイオマス発電用チップ」と、それ以外の燃料用のチップに分けられ、割合は木質バイオマス発電用チップが9割を占める。伐採時に発生する丸太と枝条、建設現場や事業所からの木くずが、主な原料である。
「運送事業」は、伐採現場からの原木の運搬が9割を占め、残りは建設現場などから出る産廃の収集・運搬・処分となる。
「原木購買事業」は、県内にある国有林の立木を入札で購入し、販売するもので全売上の1割ほどである。
当社では、これら3つの事業に、伐採、運搬、加工、再資源化と一貫した流れがあるので、全体を一つの事業としてとらえている。

事務所となる社屋

FIT材置き場

産廃中間処理場もある敷地内

事業の特長や強みは何ですか？

伐採から運搬、加工、再資源化まで、一貫して対応できることが、今後の事業展開に活かせる強みと考える。
東日本大震災を契機に、再生可能エネルギーの源となる木質バイオマス燃料の重要性を認識した。震災の翌年にFIT制度が導入され、環境に配慮したエネルギー調達を後押ししてきた。FIT制度では、3区分ある木質バイオマスの中で最も買取価格が高いのが、間伐材等由来の木質バイオマスで、この区分に該当するチップの生産量が一番多いことが強みになっている。
当社は木質バイオマス燃料の製造にいち早く着手し、FIT制度スタート時、県内にまだモデルが無い段階から関連事業者の協力を得て、フロントランナーとして事業化に取り組んできた。

代表的な製品、サービス、設備などは？

2014年、バイオマス燃料をつくるために導入した原木の切削機は、日本での第一号機となるドイツ製で、最大直径90cmの原木を丸ごと切削しチップ化できる。また、伐採現場でのチップ化が可能な自走式切削機をはじめ、山から原木を運搬するためのトラックとして、深箱ダンプ車、平ボディー車、エプシロン車など、様々な車種を保有し、現場の状況に応じた効率的な運搬が可能である。

今後の展望をお聞かせください。

2024年12月に稼働予定の遠州フォレストエナジー発電所に木質バイオマス燃料を供給することが、最大のミッションであり、全体量の60%を供給目標にしている。発電所側は、静岡県産の未利用間伐材を対象に、その枝条や根元部、樹皮も活用する方針を立てており、当社が2019年に開設した天竜営業所は、発電所への燃料供給拠点としての役割を担っていきたい。
使われる燃料は年間9万トンにものぼるため、調達に協力してくれる事業者に対し、木質バイオマス供給事業者認定が取得できるよう支援し、調達量の確保に努めていく。
発電所が稼働することで、地域資源の無駄ない活用が促され、それが静岡県内の森林整備や林業活性化につながることを期待している。

日本で最初に導入したドイツ製の原木切削機

切削機は直径90cmの原木をそのまま投入できる

再生可能エネルギー事業の展望を語る
森　瑞樹　代表取締役

取材日：令和6年8月19日

富士宮木材協同組合

ミズキ林産株式会社

代表取締役　森 瑞樹

本社：静岡県富士市大淵5197
TEL.0545-35-7005　FAX.0545-30-7089
Mail.mizukirinsan@chorus.ocn.ne.jp

拠点：大渕チッププラント・富士川（営）・天竜（営）
設立：2007年7月
事業内容：木材チップの生産・販売、原木の運搬、山林・立木・原木の購買、産業廃棄物の処分・収集運搬、合板用原木の管理・生産（（株）ノダ富士川事業所様構内）
従業員数：25名
許認可等：産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業、一般貨物自動車運送事業、国有林一般入札参加資格
ＵＲＬ：https://mizukirinsan.jp/

発行：静岡県木材協同組合連合会